

Canforo

カンフォロ

愛媛県美術館ニュースNo.30 2006

No. 30

Exhibition 企画展 1

山寺・後藤美術館所蔵 ヨーロッパ絵画名作展

～宮廷絵画からバルビゾン派へ～

平成18年6月16日[金]～7月30日[日]

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場/新館1階[企画展示室]

山寺・後藤美術館について

山形県の山寺は、松尾芭蕉も訪れた史跡と景勝の地です。山寺・後藤美術館は、山形県出身の実業家、後藤季次郎氏の収集したヨーロッパ絵画を中心に、ガレなどのガラス作品、ロダンの彫刻などを収蔵する美術館として平成6年に設立されました。今回の展覧会では、同館の魅力的で特色あるコレクションより、ヨーロッパ絵画の名品約70点が出品されます。

展覧会のみどころ

ロココからアカデミズム、そしてバルビゾン派へ至るフランス絵画は、今回の大きなみどころです。特に、コレクションの中核をなすバルビゾン派の作品からは、コロー、ミレー、ルソーらの詩情あふれる田園風景をご覧頂くことができます。また、確かな技術に裏打ちされたアカデミズムの優品や、ここに紹介するギュスターヴ・ドレらロマン主義の流れを汲んだ画家たちの作品も含まれますので、様々なタイプの作品を見比べてみるのも興味深いでしょう。文学作品の挿絵作家として知られるドレは、モノクロームの版画における巧みな線描と劇的な明暗表現に長けていました。本作品でも、木々を染める夕暮れの光と黒々とした城館のシルエットが対比をなし、幻想的な情景が浮かび上がります。また、城館に乗り付けた小舟や手前の岸辺にいる人物たちが文学的な趣をそえています。ロマン主義の作品にしばしば見られるこのような細部の表現に注目してみると、作品のもつストーリーに分け入ってゆく楽しさを味わうことができます。

さらに、周辺のヨーロッパ諸国で制作された珠玉の名品も見逃せません。ドラマティックなバロック様式によるスペインの宗教画、みずみずしい自然をとらえたオランダの風景画、そして、繊細な描写が際立つイギリス絵画など、一つ一つの作品に、画家たちの確かな技巧と、それぞれの時代や地域性がうかがえます。国内のコレクションではなかなか見る機会の少ないこうした作品は、ヨーロッパ美術の輝かしい伝統を今なお鮮やかに伝えてくれます。初夏のひと時、それぞれの時代を刻んで生きつづけてきた名作たちと、じっくり向き合ってみてはいかがでしょうか。 学芸員 箱田 千穂

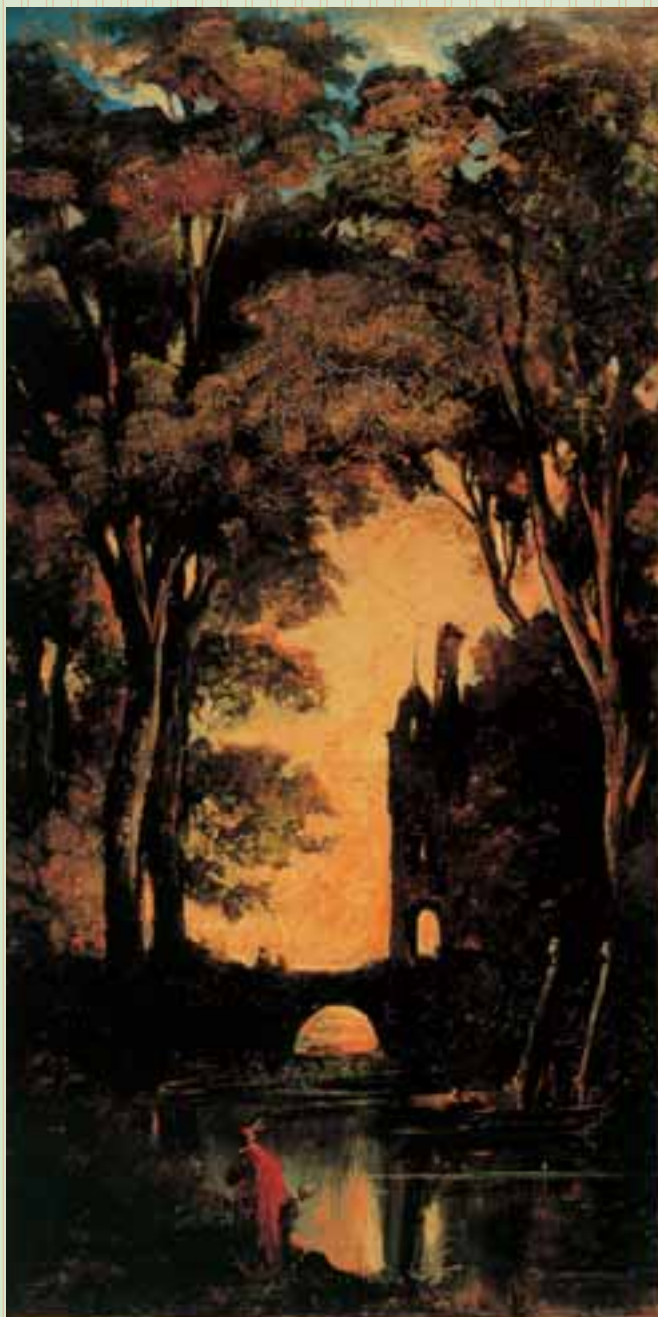
関連イベント

ギャラリートーク 6月17日(土) 14:30～、会期中毎日曜日 11:00～
当日、企画展示室前にお集まりください。(観覧券が必要です)

実技講座
みどりを探る

A.ウッチング 6/17(土)
B.ドリップング&スタンピング 7/1(土)
C.パステル作り 7/15(土) 各14:00～16:00

お申し込み方法等、詳細は当館普及係までお問合せください。



ギュスターヴ・ドレ「城の夕暮れ」

特集展「人物画-歴史と風俗」より

岩波昭彦《倶利伽羅谷合戦》

会場:新館2階 [常設展示室]

7月19日(水) - 9月24日(日)

休館日は、本紙ご利用案内で確認ください。

著作権等の関係により 図版を削除しております

常設展示室1では、7月19日(水)から9月24日(日)までの間、「人物画-歴史と風俗」と題する特集を行います。古代の英雄から無名の人々まで、様々な人物を描いた日本画をご覧ください。

展示する作品の半数近くは歴史や古典文学に取材した作品です。それを歴史画といえます。

明治から昭和にかけて数多く制作された歴史画の中でも特に好まれた画題は、平家物語でした。今回ご覧いただく作品の中にも《鶴越》や《倶利伽羅谷合戦》など平家物語を描いたものがあります。

梶田半古の《鶴越》が一ノ谷における源義経の奇襲の様を描いたのに対し、《倶利伽羅谷合戦》は、北陸の倶利伽羅峠で平維盛の大軍に奇襲を仕掛ける木曾義仲軍の勇姿を描いています。昔日の院

展の巨匠の作かと思われクラシカルな力作ですが、平成10年(1998)に制作されたものです。作者は岩波昭彦。昭和41年(1966)長野県生まれ。院展の院友です。アメリカの都市風景を情趣豊かに描く日本画家として知られますが、実は海外では抽象画家としても活躍しています。二つの顔を持つわけですが、しかも彼にはもう一つ、歴史画家としての顔もあるのです。もともと大の歴史好きで、中学生のとき既に武者絵・合戦図をよくする少年として話題になり、地元新聞で紹介された程でした。

ちなみに岩波家は木曾義仲の乳兄弟、今井四郎兼平にさかのぼるとのこと。この歴史画は画家自身のご先祖様の肖像画でもあるのでしょうか。

学芸員 梶岡 秀一

愛媛の版画

会場:愛媛県美術館分館(萬翠荘) 郷土美術館

著作権等の関係により 図版を削除しております

大正時代から昭和前期は、創作版画が全国的に普及した時代でした。「自画自刻自刷」を旨とする木版画を自己表現の手段とする創作版画運動は盛り上がり、創作版画協会の結成、帝展の版画部門設置など氣勢を挙げていました。これに応じるように、全国の青年達は展覧会へ出品し、相次いで創刊された雑誌に熱心に投稿し、また各地で版画同人誌が生まれ、空前の版画ブームが起こったのです。愛媛でも若者達が版画制作へと情熱を傾けていき、中央へ進出する版画家が登場し、戦前戦後を通じて活躍しました。

今回は、愛媛出身の版画家、畦地梅太郎(1902

普及
レポート

鑑賞教育レクチャー「見る」事は「考える」こと!!

展覧会で1点の作品をどのくらいの時間眺めていますか?統計的には大半の人が1分もみていないという報告があります。当館では、ガイドボランティアを導入し、毎日、鑑賞者と一緒に作品を見て対話する場を作っています。

その活動の普及及び理解を深めていただきたいと2月5日(日)に対話型鑑賞法に関する講義&実体験という濃厚な1日レクチャーを開催しました。講師には京都造形芸術大学において「見る」ということを1年通じて教えている福のり子先生をお迎えし、先生の快活なトークで、笑いあり真剣トークありの和やかな時間となりました。午前中は、アートとは? 見るとは? という話から始まり、人は見てい

るつもりで見ていないものが多いが、自分の意見を人に言うこと、他の方の意見を理解しようとする事などで、「見る」訓練ができること。また、作品をじっくりと見ることで作品や作家を理解することができるということ、スライドを使って講義してもらいました。

午後には常設展示室において、当館代表者2名と京都造形芸術大学生2名をナビゲーター(司会役)にして、実際の作品で参加者にも鑑賞者として発言してもらいながら、対話型鑑賞法を実体験しました。その後、良かった点や改善点を話し合い、発言しやすく、楽しく鑑賞できるようにする方法を学びました。学芸員 田代 亜矢子



普及
レポート

「ありがとう!ダリ!!」-ダリの宇宙とシュルレアリスムの巨匠たち展-

「ダリってだり?」(2月の)寒さもいっきに吹き飛ばす!こんなバタなダジャレとともに、『ダリの宇宙とシュルレアリスムの巨匠たち』展が2月10日(金)~3月26日(日)まで開催されました。期間中、ダリが製作に関わった映画の上映会やエントランスコンサート、「ダリ展まるごと講座」「学芸員によるギャラリートーク」、毎週末ごとにシュルレアリスムの巨匠の作品をひとつだけ取り上げて対話型トークを行う「週末の朝はダリ!」など、ダリ展をより楽しむためのプログラムが多数開催されました。中でも一番楽しい時間となったのが、期間中、毎日のように元気にやってきてくれた小・中学生の子どもたちとのシュルレアリスム作品をめぐる対話でした。このプログラムは、学校からの申し込みに応じて、平均10名前後の

子どもたちのグループに美術館スタッフが一人ずつついて、展示室で対話型トークを行う、というものです。今回が美術館初体験!という子どもたちも多く、最初は自分の思ったことを話すことにおっかなびっくりの子もいましたが、ダリの作品を前にした途端、そんなことは吹き飛んでしまい、それぞれに「見えているもの」「見えないけどあるもの」についての対話が広がっていきました。そして、しまいには、トークが盛り上がり過ぎて予定時間オーバー、引率の先生をハラハラさせる場面もありました。しかし、その後子どもたちからは「美術館面白かったー!!」という、うれしいおたよりが届いています。…恐るべしダリ!!そして、ありがとう!ダリ!!

学芸員 鈴木 有紀



4月28日(金) - 6月25日(日)

休館日は、本紙ご利用案内で
ご確認ください。

木和村創爾郎
《潮来初夏》

～1999)・石崎重利(1901～1996)・木和村創爾郎(1900～1973)・中尾義隆(1911～1994)の作品を展示します。彼ら4人の作品によって愛媛の版画史をたどるとともに、近代日本版画史における最も豊かな時代をうかがうことが出来ることと思います。

木版画は、年賀状に使われるなど、私たちにとっては子どもの頃から馴染み深い表現の一つです。現在のように広く親しまれるように至った木版画の黄金時代に思いを馳せてみませんか。

学芸員 西田 多江

特集展2 家族で楽しめる夏休み企画!

なぞなぞ美術館「何してるの?」

■ 会場:新館2階 [特別展示室]

7月19日(水) - 9月24日(日)

休館日は、本紙ご利用案内で
ご確認ください。



木村武山《羽衣》



美術館では昨年に引き続き、夏休み企画として、なぞなぞ美術館を開催します。この“なぞなぞ美術館”の特徴は、展示会に行くとふだん作品の横にあるキャプション(題名や作者名が記されたカード)がまったくなく、でもその代わりに作品をみた小学生や美術館の警備員、学芸員、高齢者…と、4～5つの異なる立場の人たちの「私はこう思う!」キャプションがついていること、そしてそのキャプションを見ながら、展示室を訪れた人たちが更に「私はこう思うんだけど!」と作品をめぐる“対話”がどんどん広がっていく点にあります。第一弾

として開催した昨年は、展示会を訪れた多くの方から対話が広がって、毎日新しいキャプションを付け足していくのうれしい悲鳴が上がりました。

今年のテーマは「何してるの?(何が起ってるの?)」。展示室に展示された作品の中で様々な動作をする人物(生きてる人間?!じゃないかもかもしれません)や動物、現象が登場します。さあ、今回も美術館で『なぞなぞ美術館』をどうぞお楽しみください。注:答えはいつもひとつじゃないですよ。
学芸員 鈴木 有紀

● I ● N ● F ● O ● R ● M ● A ● T ● I ● O ● N ●

募集中 情報サービスボランティア

当館の図書コーナーでは、ボランティアの皆さんが図書の管理や来館者へのご案内などの活動をして下さっています。このたび、「情報サービスボランティア」として、活動内容の充実をはかるとともに、新たに参加者を募集しています。興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせください。

○お問い合わせ先
TEL.089-932-0010 (ボランティア担当)



『鑑賞タ・イ・ム』 のお知らせ

毎日(第2・3土曜日を除く)午後2時から1時間、常設展示室において2・3点の作品について、ガイドボランティアと共に、対話型鑑賞をしていただけます。是非、ご参加ください。

「見る」ことは「考える」こと!!

どうして
そう思ったの?



この絵の中で
何が起ってるのかな?



募集中 友の会会員

愛媛県美術館をより美術が楽しめる美術館とするために、美術館の活動や運営を支援し、協力いただける友の会会員を募集します。友の会に入会すると、展示会が無料でご覧いただけるなど、美術館を利用することで、様々な特典も受けられます。皆様のご入会をお待ちしております。

○お問い合わせ先
愛媛県美術館友の会 TEL.089-932-0147



四大浮世絵師展 —写楽・歌麿・北斎・広重—

平成18年8月11日(金)～9月18日(月・祝)

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場／新館1階 [企画展示室]

※会期中、一部作品の展示替えがあります。(前期:8月11日～9月4日、後期:9月6日～18日)



東洲斎写楽《風龍三の金貨石部金古》(部分) / 喜多川歌麿《教訓親の目録 俗三云はくれん》(部分) / 葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》(部分) / 歌川広重《東海道五十三次 三鳥》(部分)

浮世絵は、江戸時代に主として都市部の町人によって生み育てられた大衆的な美術ですが、今や日本を代表する美術として、広く世界の人々にも愛好されています。

明和2年(1765)に多色摺木版である「錦絵」の技法が完成して以降、浮世絵は目覚ましい展開を見せます。特に、寛政(1789～1801)から天保(1830～44)年間にかけては、次々と人気絵師が登場し、その美と技を競い合ったまさに浮世絵黄金期です。本展では、日本有数の良質なコレクションとして知られる神戸在住の中右瑛氏の膨大な蒐集品から、黄金期を支えた、東洲斎写楽(生没年不詳、活動期:1794～95)、喜多川歌麿(1753?～1806)、葛飾北斎(1760～1849)、歌川広重(1797～1858)という四大絵師の役者絵、美人画、風景画など約170点を厳選して紹介します。

強烈なデフォルメで役者の一瞬のしぐさを劇的に捉え、わずか10ヶ月の活動で忽然と姿を消した謎の絵師・写楽。女性の理想美と色香を写して一世を風靡した写楽のライバル・歌麿。奇抜な発想と圧倒的な画力で絶えず江戸っ子たちの度肝を抜いた視覚の魔術師・北斎。そして、日本風土の美しさを追求し、四季折々の自然風物やそこに生きる人々の姿を詩情豊かに謳い上げた広重。四大スターの代表作が一堂に会するまたとない機会であり、特に写楽の役者絵が20点も並ぶ機会は希少です。

浮世絵は単純に「鑑賞」するためだけのものではなく、人気役者のプロマイドでもあり、旅行用のガイドブックでもあり、評判の店のチラシでもあり、最新の時事や流行を伝える新聞・雑誌でもあり…今の我々がインターネットやテレビから情報を得ると同じような感覚で、江戸の人々は浮世絵に親しみました。「絵」としての美しさだけでなく、江戸の町の華やかな賑わい、そして我々の大先輩でもある江戸の人々がどう暮らし、何を考えていたのかをのぞき見るような気分で鑑賞していただければ、浮世絵がとても身近に感じられるのではないのでしょうか。

学芸員 長井 健

関連事業 詳しくは、美術館までお問い合わせください。

ギャラリートーク

■日時:会期中 毎木曜日 11:00～

平成18年度 文化庁芸術拠点形成事業

家族プログラム たんけん! はっけん! エドワールド!!

随時受付

夏休み恒例の「たんけんシリーズ」第2弾!企画展入口で指令書をもって、エドワールドをたんけん!!

■日時:8/12(土)、13(日)、19(土)、20(日)、26(土)、27(日) 各9:40～17:00 (12:00～13:00はお昼休み)

木っ端でスタンプ

随時受付

木っ端から簡単なスタンプを作ってみませんか?

■日時:8/14(月)、15(火) 10:00～12:00、14:00～16:00

美術館日記

この春、新しい職員が転任して参りました。それぞれに美術館で働くことの思いをひとこと語っていただきました。

●河本一世 総務課長

文化の香る美術館勤務を喜んでいます。厳しい情勢の中にもありますが、多くの方々にいろんなことを教わって、館長の掲げる身近な美術館づくりに、お役に立てるよう頑張りたいと思っています。



●神原輝洋 分館長

大正11年に建造の萬翠荘に我身を置く時、愛媛県誕生133年の歴史のまっただ中にタイムスリップしたようで、得体の知れない緊張と身震いを覚えます。この感覚、「そのときどきの初心」を大切にしていきたいです。



ご利用案内 ■ 開館時間:9:40～18:00 (入室は17:30まで) ■ 休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日及び振替休日当たる場合、毎月第1月曜日は開館、翌火曜日が休館。)8/14は開館 年末年始 12/29～1/3

アトリエ 利用時間 9:40～18:00

創作活動のできるスペース、アトリエはどなたでも自由にご利用いただけます。お申し込みは、お電話か、直接来館して予約してください。

- 利用内容:版画・木工・染織・写真・粘土など
- お問い合わせ先:ふれあいアートセンター tel.089-932-0147

講堂・研修室・県民ギャラリー

講演会、研修、作品発表の会場として講堂(定員120名)、研修室(定員56名)、県民ギャラリー(12室)がご利用いただけます。料金等、詳細については、当美術館総務課まで、お問い合わせください。

ハトの声(編集後記)

カンフォロの発行回数が年3回になりました。次号は10月、2月の発行予定です。毎月充実した内容でお届けしますので、お楽しみに!(M.I.)



休館日のお知らせ

●=休館日

6	7	8	9
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
. . . 1 2 3 1	. . 1 2 3 4 5 1 2
4 5 6 7 8 9 10	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9
11 12 13 14 15 16 17	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	10 11 12 13 14 15 16
18 19 20 21 22 23 24	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	17 18 19 20 21 22 23
25 26 27 28 29 30	23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30 31 . .	24 25 26 27 28 29 30



愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
<http://joho.ehime-iinet.or.jp/art/>